



## 【おかげさまで開設5周年！測定所はがんばります！】

会員のみなさま。ご支援くださっているみなさま。

5月14日の当測定所・開設5周年のつどいは、40数名の方にご参加をいただき大成功でした。映像『たゆたいながら完成版』の上映、石丸さんの『東日本土壌測定プロジェクト』の貴重な報告、渡辺さんの豊富なデータに基づく『原発事故による健康被害予測』、河野さんのミニライブ熱演、無料測定会、お茶会、などなど充実した内容だったと思います。

(石丸さん、渡辺さんの講演内容は2面に掲載しています。)

つどいに参加された方からは、「難しい事柄を適格かつ正確にお話していただき、大変わかりやすく、勉強になりました。」「低放射線被曝でも影響が有ということが、あらためて分かった。」などの良い感想をたくさんいただきました。これで、次の6周年までがんばる元気が出ました。

そんな中、高浜原発が再稼働しました。大飯原発も再稼働する日が迫っています。福島原発事故も収束せず、原発事故避難者が京都でも数百人が生活しているのに。再び過ちを招くような政策に、憤りを感じます。

汚染された福島の土壌を測った時、その土は見た目は京都の土と何ら変わりません。しかし、測定器はすぐ反応し、スペクトルの山がぐんぐん伸びていきます。まるで測定器が悲鳴をあげてるようです。豊饒な大地が、なぜこうなってしまったのか。その責任を国も東電も取っていないのです。あの復興大臣は暴言で辞任しましたが、今の政権の本音を口に出してしまったのでしょうか。

次に事故がおきたら、若狭の原発から放射能が出たら、京都は隣です。他人事ではありません。

過去を変えることはできませんが、過ちを防ぐことはできます。そのために測定を続けていきます。汚染の事実を測り続けること、記録を残すこと、知らせること、それが市民の市民による測定所の役割ですから。ぜひ、いっそうのご支援をお願いいたします。

2017年6月18日

京都・市民放射能測定所 事務局長 佐藤和利